

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年9月）

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。食品は加熱処理し、食事の前などにはしっかり手を洗いましょう。
- 新型コロナウイルス感染症は幅広い年齢層で患者が発生しており、今後も注意が必要です。
- インフルエンザは、例年の同時期と比較して患者が多くなっています。
- 20歳代～50歳代を中心として梅毒が多く発生しており、注意が必要です。妊婦の報告もみられます。

◇ 全数把握の対象

<9月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	29件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
デング熱	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	17件

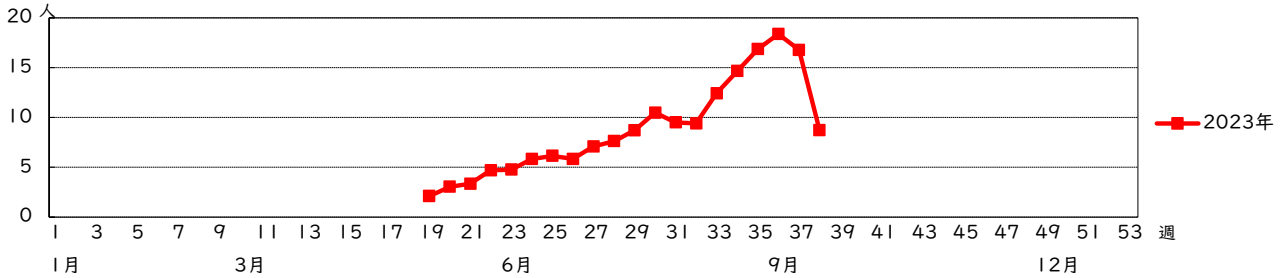
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、血清群O157が17件、O103が4件、O111が2件、O26が1件、O148が1件、O血清不明が4件です。経口感染と推定される報告が6件、接触感染と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が17件ありました。
- 2 **デング熱**:20歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 3 **レジオネラ症**:80歳代～90歳代で、水系感染と推定される報告が2件、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 4 **アメーバ赤痢**:いずれも50歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代および80歳代で、いずれも古典的CJDです。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代および70歳代で、血清群はA群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、性的接触(同性間)での感染と推定されています。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:60歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 10 **梅毒**:20歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が15件(異性間12件、同性間1件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。

報告週対応表	
第35週	8月28日～9月3日
第36週	9月4日～9月10日
第37週	9月11日～9月17日
第38週	9月18日～9月24日

◇ 定点把握の対象

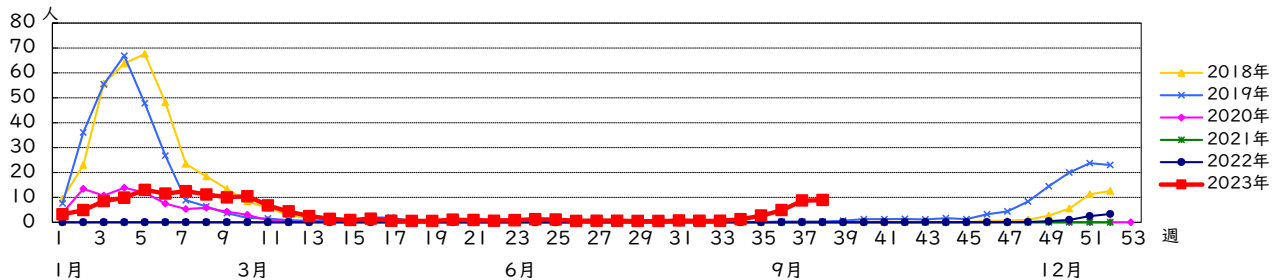
1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第35週16.86、第36週18.38、第37週16.78、第38週8.73と推移しています。



2 インフルエンザ:

2023年9月4日(第36週)より2023/2024シーズンに入りました。第35週2.70、第36週4.91、第37週8.76、第38週8.97と増加しています。第38週の市内迅速診断キットの結果は、A型760件、B型1件、A・B型ともに陽性2件と、A型が多く検出されています。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報3号をご参照ください)



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:12件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:11件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月期(2023年第35週～第38週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点19件、内科定点5件、基幹定点1件及び定点外医療機関1件でした。

ウイルス分離7株及び各種ウイルス遺伝子16件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第35週～第38週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザA	アデノウイルス感染症	横紋筋融解症
ヒトコロナウイルス229E	1				
アデノウイルス1型	2			1	
アデノウイルス3型	3				
ライノウイルス	2	2			
パラインフルエンザウイルス2型	1				
ヒトボカウイルス		1			
インフルエンザウイルスAH1pdm	1		2		
インフルエンザウイルスAH3			4		
コクサッキーウイルスA2型				1	
パレコウイルス3型					1
合計	6 5	- 3	- 6	1 1	- 1

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

9月期(2023年第35週～第38週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌2件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、黄色ブドウ球菌1件でした。非定点からの依頼は、大腸菌2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌22件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌4件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(環境由来)17件、劇症型溶血性レンサ球菌2件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌3件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第35週～第38週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点			
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> PVL産生(1)	
	黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> enterotoxin A産生(1)	
非定点	大腸菌	2	<i>Escherichia coli</i> (2)	
保健所	腸管出血性大腸菌	22	O157:H7 VT1 VT2 (7)、O157:H7 VT2 (4)、O157:H- VT2 (1)、O103:H2 VT1 (4)、O103 VT1 (1)、O111:H- VT1 VT2 (2)、O74:H28 VT2 (1)、Og148:Hg18 VT2 (1)、O26 VT1 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	4	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(環境由来)	17	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (13)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (3)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌(1)、A群溶血性レンサ球菌(1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	3	培養陰性(2)、 <i>Legionella pneumophila</i> SG6 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 TUT 陽性(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】